

9 甲子高原 (西郷村)



環境

東北新幹線「新白河」より車で20分、西方那須連山の中腹に新甲子温泉がある。標高800mのこのあたりは阿武隈川の源流で、見事なブナの原生林が残り、多数の野生鳥獣が生息する豊かな自然に恵まれた地域である。

季節

新甲子温泉みやま荘前の一帯は「キビタキの森」と呼ばれ、北斜面のブナを主とする落葉広葉樹林の中に、山腹を縫うように約2kmの探鳥路が作られている。5月初旬、林内は群生するカタクリの花に覆いつくされ、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラやキツキの仲間のコゲラ、アカゲラなどが営巣を始め。また渡って来たばかりのキビタキのなわばりを宣言する姿が、新緑の木々の葉から見え隠れするのもこの時期である。探鳥路は新甲子温泉の一番奥で再び道路に出るが、ここから剣桂にかけても樹林が深くヤブサメ、センダイムシクイ、コルリ、クロツグミなどが出現し、道路に沿う渓谷ではミソサザイやオオルリの朗らかな声が聞こえてくる。

新甲子温泉から元湯の大黒屋までの約4kmは、正に阿武隈川の源流で、幾つもの沢が集まり阿武隈川の本流をなしている。本流の深い渓谷は西郷瀬まで続き、渓谷に沿って約2kmの新甲子遊歩道と、約3kmの西郷遊歩道が作られている。このコースも四季

を通じて野鳥が豊富などところで、4月下旬から11月上旬まで楽しむことができる。沢では、カワガラス、ミソサザイ、ヤマセミ、キセキレイが見られ、周辺の原生林ではキビタキ、オオルリ、マミジロ、センダイムシクイなどが、いたるところでその美しいさえずりを聞かせてくれる。時にはアカショウビンのヒョロロロロ…という物悲しげな鳴き声を聞くこともある。またこの渓谷は植物も豊富で、特にヤマザクラやヤシオ

ツツジの花が見事である。秋にはツグミ、ジョウビタキ、シメ、カシラダカ、マヒワなどが姿を見せる。

新甲子温泉の近くには国立那須甲子自然の家があり、ここからの探勝路はキビタキの森まで続き、温泉で探鳥の疲れをいやすのも楽しみの一つである。

交通

JR東北新幹線「新白河」から福島交通甲子高原行きバスで40分。「新甲子温泉 (みやま荘前)」下車。車利用の場合は、剣桂に駐車場がある。

